

2016年度ゆきとどいた教育を求める全国署名 まだ終わらない!

12月9日現在5,425,529筆

香川県 公立4960筆 私学 17722筆 合計22682筆



発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組
合費に含む

香教組ホームページ
<http://kakyoso.com/>

書局閉鎖の
お知らせ
12月29日
から
1月3日
まで



12月9日 東京、発明会館で2016年度「ゆきとどいた教育を求める全国署名」の全国集約集会が行われました。2月の国会提出へ向け、各地の取り組みの様子を保護者・教職員・私学の高校生が交流しました。残り2か月、ラストスパートをかけようと呼びかけました。

12月9日現在の「全国署名」集約数を発表する高校生と各県の代表者のみなさん

「ゆきとどいた教育を求める全国署名」は2016年度で28年目を迎えます。集まった署名総数は、4億筆を超えます。この「署名」という全国の児童生徒・保護者・教職員・地域のみなさんの声が後押しとなり、45人以下が40人以下、さらに35人以下学級へと前進してきました。また、様々な教育条件が整いました。言わなければ、言い続けないければ現状維持もできなくなりません。「保育園落ちたの私だ!」と声をあげ国会前で実施した集会が、保育条件整備への動きを作りました。

教育行政キャラバンの中で、「少人数加配を活用して全学年35人以下学級にしたかったが、加配の数が足りずに実施できなかった」町があることがわかりました。県教委に問い合わせたところ「予算に限りがあるため、希望通りにはいかない」との回答がありました。「制度は整えたが人がいない」のです。制度導入から3年目の2016年度は、市独自で加配教員がない学校の少人数学級実施率は低下しています。やはり、市町教委や学校任せではなく、国の責任・県の責任で教職員の定数改善をし、35人以下学級を推進すべきです。

香川県では、9月議会で国会への「少人数学級の拡大など教職員定数の改善を求める意見書」が全会一致で採決されました。このことで、香川県の少人数学級への姿勢を示したことになりました。2月まであと2か月、教育署名に取り組みましょう。1筆の署名が「私の意思」表示です。

あなたも香教組の仲間!

「勉強したい…」 「困った…」 などあなたの悩みの解決をともに解決できるようお手伝いします。あなたの加入をお待ちしております。問い合わせは、香教組本部 (087-867-4797) まで

香教組署名にご協力を!

- 1 教職員の働く環境改善を求める署名が「香教組署名」です。毎年、2月に職場のみなさんの声とともに、県教委に届けています。
 - 2 2016年度の要求項目は次の通りです。1 教職員として安心して暮らすことができる給与を保障するとともにすべての教職員の待遇改善をはかってください。
 - 3 少人数学級を早期に充実・発展させてください。小・中すべての学年で35人以下学級を実現してください。
 - 4 長時間勤務・多忙化を解消し、実質的な拘束時間の短縮に向けて具体的な措置をとってください。
 - 5 講師経験を考慮した採用制度にしてください。
- また、香川教育発行などへのカンパをワンコイン(500円)以上のご協力もお願いいたします。組合員がお願いに行きます。

小黑板

「教育機会確保法」が可決した。当初、フリースクールなどの「学校以外の教育の場を義務教育として認定する」としていた規定は「不登校を助長する」として見送られた▼「不登校」をどうとらえるか。学校そのものの在り方がこれから問われてくる▼先日、町ではあったり教え子に会った。幼かった彼女も高校生。楽しい高校生活を送っているという▼彼女の話が興味深い。「学校って不思議な世界。社会人になったら、絶対通じないだろうな」というこの

とが普通にOK。誰も、疑問に思わない。もちろん、一部を除いては先生も。だから、学校で授業を受けて、学校で生活して…。学校だけで生活が完結するのは危険。学校は、何でもしてくれる。考えることもしてしてくれる。これって危険▼小学生時代、小学生から高校生まで部員

学校とは…? 危険

のいるクラブチームで活動していた彼女は、「そこは、いろんな人がいて、自分で何とかしないといけない世界だった。学校とは違う世界。今振り返れば、その経験は大切だった」▼学校の在り方の根幹に触れる話ではないか…。

教育行政キャラバン つづき

新たな学校統廃合はなし！さぬき市

さぬき市

- ① 市町教育委員会独自で35人以下学級を進めて
 - ② 複式学級は解消を
 - ③ 住民の合意のない統廃合の中止
 - ④ 給食費の無償化を実現
 - ⑤ 義務教育の入学準備金の支給を入学式より前に
 - ⑥ 高校生の就学支援金の充実に
 - ⑦ 大学生の奨学金の充実に
 - ⑧ 「教育の政治的中立性」と現場への対応の見解を
 - ⑨ 長時間過密労働の解消について具体的な対策は？
- ③ 神前小・石田小の統廃合は決定し、天王中学校跡になる。あとは、今のところない。造田小は全校 児童数160人。充分やっつけていける。統廃合はない。
- ④ 財政上厳しい。
- ⑤ 間違いなく入学した子への支給。入学式以前にはできない。時期を早めるよう努力した。
- ⑥ ⑦ 保護者がさぬき市在住の高校生 月額1万5千円（5年以内に返納）大学生 月額3万7千円（4年以内で返納）無利子の貸与型奨学金。返納期間を延長するように検討中。
- ⑧ あたりまえのこと。特別に何かをしようとは考えていない。
- ⑨ 部活動は週1完全休業日を設定。スクールバスがあるので、他市町よりは解消している。遅くなったら休み

香川県

- ① 県独自で柔軟に対応できるように制度を改正してきた。
- ④ 財政上県としてはできない。市町の判断。
- ⑥ ⑦ Uターンの学生への貸与型の奨学金制度を拡充している。
- ⑧ 慎重に対応したい。現場が過剰反応するのはよくない。
- ⑨ 2016年度、県内8校に公務支援員を配置した。2017年度、全ての市町で「ストレスチェック」の実施が決定。厚労省HP「心の耳」で、自分でチェックできる。「ストレスチェック」で自分の状態を知り、自分で適切に対応できるようになった。

県のメンタルヘルスを活用して欲しい。

さぬき市教育長は「造田小が複式学級になるようになったら考える」と回答しましたが、さぬき市教育委員会による「さぬき市学校再編計画（2008年2013年改訂）」によると、2013年から2017年の間に、長尾小・前山小・造田小を統合するとしています。2016年前山小と長尾小が統合していますから、今後の動きを注視する必要があります。

2017年度から、全市町で実施される「ストレスチェック」はあくまでも「自分で自分を知るためのもの」であることが、県教委健康福利課の回答で分かりました。

保護者対応は、どれだけ経験を重ねてもなかなか大変です。最近、情報が氾濫しており、情報源が学校だけではなくになりました。知識も担任より豊富な保護者もたくさんいます。多忙のため、新聞を読まない、TVも見ない教員より社会の動きをよく知っています。そんな中で、保護者の対応をしていくわけですから、細心の注意を払ってもトラブルは起きるものです。価値観も多様化しており、対応に苦慮する場面も経験したことがあるはずです。

Mさんのお母さんは、些細なことが気になります。最初は、「子どもが教科書のような字が書けないのは先生の指導が悪いからだ」というものでした。「持ち帰ったプリントの織り方、端がきちんとそろうように指導してない」「プリントを親に出さない」「採点の○が閉じていない」そんな細かいことまで・・・。と思ったものです。そのうち、担任の服装にまで意見を言うようになり、連絡帳の担任の字が乱雑

シリーズ子どもとかわる⑬ 「保護者のクレーム」

で読みにくい（そんなことはないのですが）など、重箱の隅をつつくように毎日何かを言いに来ます。その保護者に費やした時間もかなりの時間です。今度は、午後7時・8時・9時と家庭訪問を要求するようになりました。担任も疲れ果てていました。ある日、たまたま、廊下でMさんのお母さんと話をする機会がありました。担任でない私は、直接的な話はしませんが、とりとめもない、話が続きます。そんな中で、Mさんのお母さんは小学校時代、いつも担任に「だめだ、だめだ」と言われ、「助けを求めても、相手にされなかった」ということがわかりました。お母さんは当時の担任を恨んでいると話してくれました。そうなのです。お母さんのクレームは、自分の小学校時代の負の思い出の補てんでした。その後、担任は、子どもへのかかわりを感じの言葉として伝えるようにしました。クレームは少しずつ減り、やがてなくなりました。

給食調理場



大型化・センター化・民営化進む！

香川県内の給食調理場の大型化・センター化・民営化が進んでいることが分かりました。

- ① 高松市 川添小・多肥小・林小・協和中・龍雲中の給食調理場を統合センター化
- ② 琴平町・善通寺市・多度津町 3町の給食センターを統合し善通寺市に大型給食センターを新築。完全民営化の予定。
- ③ すでに一部民営化…丸亀市・三豊市・観音寺市・宇多津町・東かがわ市・特別支援学校・高松北中

民間委託している業務は、調理・洗浄・運搬です。宇多津町は、全てを業者に委託していましたが、食材の仕入れを行政がするようになりました。その経緯は調査中ですが、全国的にみても、食の安全性の観点から、食材の仕入れは行政が行うのが主流のようです。

本来、作り手が見え、子どもたちの食べている様子を見ながら作るのが料理のはずです。自校方式がベストであることは確かですが、センター化に伴い、食の安全を脅かされないように注視し声を上げていく必要があります。